

自己紹介と有機農業に思う事

愛媛大学農学部食料生産学科食料生産経営学コース

地域資源管理研究室 3回生

田中沙英

自己紹介

- 田中 沙英
- 所属: 愛媛大学 農学部 食料生産学科
食料生産経営学コース
地域資源管理研究室
- 学年: 3回生
- 出身: 熊本県宇城市
- 就農志望。農業経営学を学ぶために
愛媛大学に入学。
- 祖父母がメロン農家。「肥後グリーン」の
慣行栽培。



有機農業に関する取り組み

- 将来的には有機農家になりたい
- 有機野菜を取り扱う飲食店でのバイト
- 有機農家との交流・手伝い
- 有機野菜の定期購入(ECサイト)
- 有機農業・有機農家の情報収集
(インターネット/書籍など)

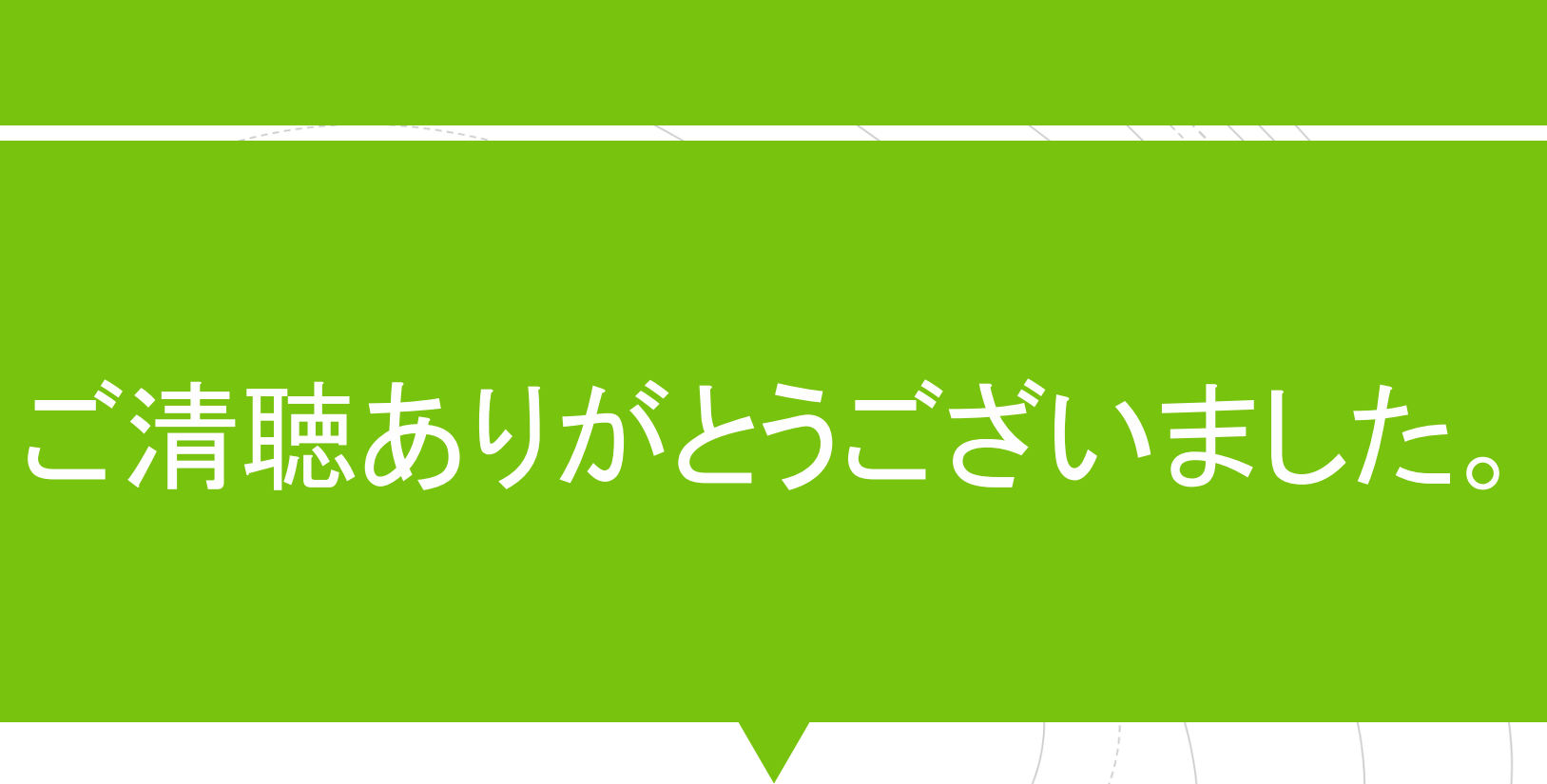


有機農業・有機農産物について普段 思っている事

- 有機農産物に興味を持っても、割高の値段で渋っている人が多い
⇒価格の高さで嫌煙されることも少なくない
- 有機農産物の価値が消費者に十分に伝わっていない
⇒小売店側にも伝わっていない
- 無農薬栽培や減農薬栽培、自然栽培などと有機栽培との違いを理解している消費者が少ない
- 認証が十分に活用されていない
- 比較的若い農家に取り組んでいる印象
- 安心・安全な食品というより、「持続可能な」栽培法で生産した食品
⇒持続可能性が重要視される傾向の強まりはチャンス
⇒一方で「有機農業」と「持続可能」が結びついている人が少ないのでは
- ひとくくりに有機農業・有機農産物と言っても生産者によってやり方は様々
- 有機農家はこだわりや自分の想いが非常に強い

- まずは価値を知ってもらうことが第一
 - 学校給食や社員食堂などで積極的に使ってもらう
 - ⇒消費者のコスト負担が少ない
 - ⇒意図せずとも身近に感じるようになる
 - ⇒有機農産物を売る(流通に関わる)人も買う人も消費者
 - ⇒売る人へ有機農業について知る機会を提供する
- 実態の伴った認証制度で、農家にもそのメリットが伝わるものを
 - 認証をあえてしない有機農家もいる
 - ⇒メリットが伝わっていない
 - ⇒売り場で他の有機農産物と一色単にされることを嫌がる人もいる
 - ⇒生産者と消費者、双方がメリットを理解できるように
- 農地集積を早急に進める
 - 慣行栽培と有機栽培の農地が入り混じっていることで有機農家に被害が生じている
 - ⇒ただでさえ手間がかかる有機農業をもっとやりやすく

有機農業・有機
農産物を普及さ
せるために



ご清聴ありがとうございました。